

科目名	児童文化			担当教員	熊田 武司、熊田 武司	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教育文化施設勤務・NPO法人国際人形劇連盟日本センター理事・人形劇団主宰					
実務経験を生かした授業内容	教育文化施設勤務及び人形劇実践の経験を生かし、児童文化財である人形劇の実践方法について演習を行う。					
到達目標及びテーマ	子どもを取り巻く文化財である児童文化財についての知識を修得し、児童文化についての理解を深める。また、幼児に対して言語表現等を伝えるための知識や技術を修得するため、総合的な教材として人形劇を取り上げ、上演できる力を身に付けるとともに、脚本製作・大小道具製作・演技などを実践し人形劇を制作する。					
授業の概要	子どもを取り巻く文化財である児童文化財についての知識を修得し、児童文化についての理解を深める。特にことば、音楽、美術に関わる文化の基礎的な見方・考え方についての理解を深めるとともに、これらの文化と子どもたちを総合的に結び付けるものとして、人形劇を取り上げ、実際に人形、大小道具、脚本を製作し、音響効果、照明効果を学習する。そして、数名のグループで人形劇を制作し、子どもを対象に人形劇作品を上演する。 【デジタル技術利用 該当なし】					

授業計画	
第1回	児童文化財とは 児童文化財の紹介と実践 ・表現をとまなう児童文化財
第2回	言葉による表現の実践 ・言葉で伝えるための発声・発音方法について ・言葉で伝えることの理解 ・エロキューション（発音、発声等）について
第3回	人形劇鑑賞 ・プロ劇団による人形劇の鑑賞（場所；附属幼稚園） ・子どもと人形劇（人形劇を鑑賞する子どもの反応の観察）
第4回	棒遣い人形の製作 ・スポンジを使用した人形製作
第5回	棒遣い人形を使用した人形劇 ・グループで小作品を制作して発表
第6回	人形劇の脚本について ・作品のテーマとモチーフについて ・登場人物の設定と作品のプロット ・脚本の製作
第7回	人形による表現の実践（１） ・表現のための人形のデザインと構造
第8回	人形による表現の実践（２） ・表現のための人形の製作
第9回	人形による表現の実践（３） ・人形の基本的な操作方法について
第10回	人形による表現の実践（４） ・大道具、小道具等の製作について ・照明、音響の効果と機器の使用方法について
第11回	発表に向けた練習・製作（１） ・計画に沿って読み合わせ、立ち稽古
第12回	発表に向けた練習・製作（２） ・計画に沿って稽古、大小道具の製作
第13回	発表に向けた練習・製作（３） ・脚本の手直し、通し稽古
第14回	発表に向けた練習・製作（４） ・計画に沿ってリハーサル
第15回	人形劇の発表 ・人形劇の上演

事前学修		演習３０時間で１単位のため１５時間の自学自習時間が必要です。事前学修時間数は、０．５時間／回です。 児童文学作品（絵本等）に親しみ、言語表現について各自考えておくこと。 グループ毎で人形劇制作の計画を立て練習・製作を進めていくこと。
事後学修		演習３０時間で１単位のため１５時間の自学自習時間が必要です。事後学修時間数は、最低０．５時間／回です。 人形劇発表に向けて、授業時間外にも各グループでの練習・製作を計画的に行うこと。

フィードバックの方法	人形劇制作過程において、グループ毎に段階的に演技指導および製作についての助言を行う。
------------	--

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	10%	人形劇鑑賞レポート(10%)
上記以外の試験・平常点評価	90%	人形劇制作の取り組みについて(15%) 人形製作についての評価(10%) 人形劇作品に対する評価(15% + 50%))
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない	無	無	無	無
参考資料	適宜プリントを配布			